月間報告書 2月分

学籍番号：　　留学先　：オーストラリア　シドニー工科大学
氏名　　：　　留学期間：2020年04月01日 ～ 2020年09月19日
年次　　：4年次　　留学区分：派遣留学
クラス　：A06

Ⅰ．受講時間数

2月の教育編は入力がありません

Ⅱ．授業内容

2月の教育編は入力がありません

Ⅲ．生活編

簡単に私の基本情報を整理すると、留学先はシドニー工科大学（ＵＴＳ）でExchange Australian Language and Culture Studiesという留学生用のクラスを受ける予定です。居住地は大学寮であるYura MudgangのStudio appartment（一人部屋）です。ということで、出発から3週間ほどの生活について報告します。
まず、出発前のビザの申請についてですが、私の場合は自分で申請しました。家族の情報や収入の詳細、渡航理由を英文で記入したり、数時間かかる作業になります。また少しでも不備があると再申請で料金が2回分になったり（一回6万円ほど）と不安要素はありますが、ネットで見本を探したり、国際部の方と相談したりしながら無事一回の申請で交付を受けることができました。どうしても不安な方は代理のサービスを利用してもいいかと思いますが、少し値は張ります。ちなみに、申請から交付まで1～2日かかると記載がありますが、私の場合5分もしない内に交付を受けたので添付ファイルなどに注意してメールを見ることをお勧めします。
10時間ほど飛行機に乗り、シドニー国際空港での入国審査を受けます。オーストラリアの審査は世界を見ても特に厳しいらしく、機内で受け取る入国カードは日本語版をもらい、少しでも該当しそうだと思った場合はチェックを入れておくとより確実かと思います。入国カードについてもう一つ。渡航先の住所、電話番号などを書く欄があるので、あらかじめメモしておく方がいいかと。（機内ではインターネットが使えません）
到着後、寮までの無料シャトルバスが出ているので、メールで受け取っていた説明に従って専用のカウンターで待機、30分後乗車。迷うことなく寮に着けました。
寮、大学ともにたくさんのイベントやオリエンテーションを開催しているので積極的に行ってみるといいかもしれません。（一部必須のオリエンテーションあり）おすすめは、大学のサークルを紹介する0'dayと寮主催の留学生のためのConversation Classです。寮主催のイベントはほとんどYuraで行われるので、そのあたりも住居選びの参考にしてもらえれば。

最後に個人的に知っていると助かる（かもしれない）情報を
・洗濯の際使うカードは、寮のカードキーとは別です。到着後すぐにStudent ID Cardを大学のStudent Center(building 10)に取りに行かれるとスムーズに洗濯できます。（ID　card受け取りの帰りに向かいのコピー室でお金をチャージすると洗濯ができます）（洗濯・乾燥　一回9ドル）
・ゴミ捨て場は、各階のGarbage roomになっています。

2021/03/29

月間報告書 3月分

学籍番号：　　留学先　：オーストラリア　シドニー工科大学

氏名　　：　　留学期間：2020年04月01日 ～ 2020年09月19日

年次　　：4年次　　留学区分：派遣留学

クラス　：A06

Ⅰ．受講時間数

No.	履修科目（原語名）	履修科目（日本語名）	受講時間数（分）	授業形態
1	Australian Language Stidies	オーストラリア言語学	180	授業
2	Australian Media	オーストラリアメディア	180	授業
3	Australians at Work	オーストラリアの仕事	180	授業

Ⅱ．授業内容

No.1
連日のコロナウイルスの影響で授業はすべてオンライン上で行われました。授業内容は主にオーストラリアの最近のニュースを通して英語の四技能（読む・聞く・書く・話す）を上げるような授業です。IELTSのスコアアップを目指したものになっています。

No.2
連日のコロナウイルスの影響で授業はすべてオンラインで行われました。
この授業は、オーストラリアでつくられた、またはオーストラリアが舞台のドラマや映画といったエンタメを通してその国の文化や問題について学ぶものになっています。

No.3
連日のコロナウイルスの影響で授業はすべてオンラインで行われました。授業内容はオーストラリアでの仕事についてです。しかし直接就労者に質問をしたり、労働法等について学んだりと実際に現地での労働を目指した授業です。

Ⅲ．生活編

授業に関して：実際に顔を合わせての授業は叶いませんでしたが、ZOOMというビデオチャットやメール、クラスの掲示板などを利用して実際は離れていますが、先生やクラスメイトとの交流は切れないような授業がすべてを通して行われています。
帰国直前から帰国まで：留学生活を中断して帰国する。この決断はなかなか難しいものでしたが、もし今後このような状況に会うことがあれば（そうならないことを祈っていますが）決断はできるだけ素早く行うことをお勧めします。なぜならいつ飛行機が運休してしまうかわからないですし、チケットが取れたとしても通常より高額である可能性が高いです。（実際私の分は倍の価格になりました）「帰国勧告」ですから強制的ではありませんが、発令されたときは帰国するつもりがなくても、すぐに帰国できるように準備を早急に始めるべきだと思います。帰国することになったとしても、留学先に大学にオンラインで帰国した後も授業が継続できないかどうか確認をとることも大事です。引き続き授業や学校のサービスを受けられるので、可能なら継続することお勧めします。

月間報告書 4月分

学籍番号：　　留学先　：オーストラリア　シドニー工科大学
氏名　　：　　留学期間：2020年04月01日 ～ 2020年09月19日
年次　　：4年次　　留学区分：派遣留学
クラス　：A06

Ⅰ．受講時間数

No.	履修科目（原語名）	履修科目（日本語名）	受講時間数（分）	授業形態
1	Australian Language Stidies	オーストラリア言語学	540	授業
2	Australian Media	オーストラリアメディア	540	授業
3	Australians at Work	オーストラリアの仕事	540	授業

Ⅱ．授業内容

No.1
主にはIELTSで試される4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）をレベルアップすることを目的とした授業です。使用する教材は新聞や記事、ニュース番組からのものなのでどうしてもコロナウイルス関連の内容になりがちですが、フォーマルな英語を文法や単語といった基礎的なところから学べます。疎かにしていた部分や勘違いしていた部分など、できているつもりになっていたところに新しい発見があるので基礎だからと言ってナメてかかると痛い目見ます。
また毎回短いエッセイの課題が出て、その都度先生からのフィードバックがあるのでライティングの型の定着やミスの癖を見つけるのに役だちます。

No.2
オーストラリアのテレビ番組や映画から文化や問題などについて考えていく授業。1学期間を通して3つの評価課題の提出が求められます。4月はその一つ目の提出でした。内容はテレビ番組（ドラマを含む）を視聴し、その中でみられるオーストラリアの文化や社会問題についてのレポート作成でした。字幕のないドラマやらあらすじ、発見を英語で記述と通常の何倍も労力の必要な課題ですが、確かに日本番組、アメリカのものなど普段私たちが目にするものとは違う発見があり何とか投げ出さず完成までたどり着くことができました。

No.3
この授業はオーストラリアの労働者や職場について学ぶことを目的としています。教材には労働基準指針や社会保障の資料などを使用して、実践的な内容になっています。特に評価課題の一つであるインタビューの結果報告は実践的であり、だからこそ苦労しています。（進行中です）現地で働く社会人の方にインタビューを行いその結果をプレゼンの形で報告するというものです。基本的に生徒主導が求められるのでインタビューアー探しからアポ取り、聞き取る内容の作成は自分でしなければならないのでかなりの挑戦です。ですがその分得るものはありました。

Ⅲ．生活編

オンライン授業について：オンラインだから発生する不都合は今のところ特に感じることなく授業を受け続けられています。しかしオーストラリアへの留学であったからこその状況であり、別の国であればかなり継続は難しいかもしれないと思うのも事実です。留学先との時差でどれだけスムーズに授業を受けられるかは変わってくると思います。僕の場合は1～2時間の時差なので授業には差支えはないですが、これがイギリス・アメリカなどの時差の大きく違う国とのオンライン授業となると授業に出席できないであったり、先生とのコミュニケーションをとるのが難しいなどかなり支障が出ると思われます。
授業内でのコミュニケーションについては通常と比べてかなり少なくなる、また活発でなくなるように感じます。同時に複数の会話を行うことができないので発言者は同時に１～２人しか存在できず、1人の話者の一方的な発言になったり、発言者が固定されてしまうこともしばしばあります。そのため、一方では先生と生徒との会話があり、また一方では生徒同士の会話があるといった普通の授業のスタイルは存在できないです。ですが、UTSの先生方はオンライン教室を一時的に数名の生徒の小部屋に分けてグループディスカッションを行う時間を設けてくれるなどいろいろ試行錯誤していただいています。
問題点ばかり上げましたが、本当は受けることができなかった授業が受けれられているこの状況は想像もしていなかったので本当に満足しています。

月間報告書 5月分

学籍番号：　　留学先　：オーストラリア　シドニー工科大学
氏名　　：　　留学期間：2020年04月01日 ～ 2020年09月19日
年次　　：4年次　　留学区分：派遣留学
クラス　：A06

Ⅰ．受講時間数

No.	履修科目（原語名）	履修科目（日本語名）	受講時間数（分）	授業形態
1	Australian Language Stidies	オーストラリア言語学	960	授業
2	Australian Media	オーストラリアメディア	960	授業
3	Australians at Work	オーストラリアの仕事	960	授業

Ⅱ．授業内容

No.1
授業も後半戦です。前半では、主に単語や文法を勉強してきましたが。今月はそれを踏まえてのライティングやスピーキングを取り扱った授業になりました。ライティングでは、IELTSでよく問われるスタイルの一つであるcause(or problem)and solution essayの組み立て方、ようく使える定型文などを学習しました。またスピーキングでは、実際のIELTSテストのphase1~3まで網羅的に取り扱い、先生や生徒同士で毎時間練習する機会がありました。

No.2
この授業では2つの事柄を同時並行で行いました。一つは先月から制作していた映画に関するプレゼンの生徒同士でのレビュー。もう一つは、オーストラリアでの移民や難民の問題を授業形式で行っていました。レビューについては、お互いにプレゼンを鑑賞し、フィードバックを送り合うといった内容です。非常に細かなフィードバックが求められ、よくあるミスや参考になる工夫などを生徒同士で見つけ合うことができました。後者の授業では、オーストラリアの成り立ちにもかかわる移民について学習し、より深くその国の歴史を知ることができました。

No.3
この授業では、2つの事柄を同時並行で行っていました。一つは、オーストラリアで働く人に行ったインタビューについてのプレゼンへの生徒同士でのレビュー。通常授業では、留学生にっとっての現地就職について学習しました。レビューでは、聞いたことのない職業の方へのインタビューが知れたり、職場への不満や改善点などのリアルな声を知れたりとても参考になりました。授業では、私たち含め、英語を第一言語としない人々の就職の難しさを知り、改めて英語の大切さを知りました。

Ⅲ. 生活編

いよいよ今学期も終盤に差し掛かっています。オーストラリアでは、こちらより早くコロナウイルスへの対策の緩和が行われているらしく学内施設の利用が可能になったり、催し物が行われたりと通常の生活に戻りつつあるとのことです。それらのお知らせを見ていると少し残念な気持ちもありますが、仕方がないことです。授業内では、ZOOMの部屋分割を使って同じ授業を受けている人

たちと会話する機会が増えました。英語で核問題について話し合ったり、時には日本語で近況を話したりを繰り返していく中で、実際には会ったこともない人たちとでも、ちょっとした仲間意識が芽生えるものなのかと少し不思議に感じています。これは、授業開始当初は全く思いつかなかった出来事です。
留学を機に意識し始めたよい癖は、帰ってきてしばらくたった今も続いています。（詳しくは書きませんが）留学生活は4か月ほど失いましたが、たしかに得るものはありました。なのでそこまで後悔や落胆は帰国から2か月たった今も感じません。

月間報告書 6月分

学籍番号：　　留学先　：オーストラリア　シドニー工科大学

氏名　　：　　留学期間：2020年04月01日 ～ 2020年09月19日

年次　　：4年次　　留学区分：派遣留学

クラス　：A06

Ⅰ．受講時間数

No.	履修科目（原語名）	履修科目（日本語名）	受講時間数（分）	授業形態
1	Australian Language Stidies	オーストラリア言語学	360	授業
2	Australian Media	オーストラリアメディア	360	授業
3	Australians at Work	オーストラリアの仕事	360	授業

Ⅱ．授業内容

No.1
6月一週・二週目とも、期末テストを実施しました。この授業は、他よりもIELTSを意識して取り組んできたもなので、テスト内容はもちろん実際のIELTSを再現したものでした。ライティングとスピーキングを行い、ライティングはcause&solutionのエッセイでテーマは「世界中の大都市圏の交通渋滞が最近頻発している。その原因と解決策を示せ」でした。しっかり時間制限もありよい練習になりました。スピーキングは、IELTSテストそのままの感じでした。3人1組と先生で行うところだけは違いましたが、出身地や好みなど個人的なことを尋ねられるフェーズ１。そこから出たテーマをもとに簡単な議論をするフェーズ２。そして社会問題などを取り上げての議論となるフェーズ３。フェーズ３はかなり難しいですが、訓練になります。

No.2
授業内では、オーストラリアの移民問題についての内容でした。もともと移民で成り立っている国であるにもかかわらず、最近は移民受け入れ反対運動が活発化しているオーストラリア。その背景や、原因を学習しました。担当の先生も片親が中国からの移民だそうで、実体験や当事者の意見などが聞けてとても勉強になりました。それと同時進行で、期末レポートの制作もしました。先月のプレゼンテーションのテーマをより深く調査し、その内容をまとめました。わたしは、「第二次世界大戦中の日本軍のオーストラリアへの攻撃」をテーマに追加調査を行いました。戦時中のオーストラリアとの関係はあまり取り上げられませんが、確かに戦闘は起こっており、悲しい歴史はその2国間にも存在していました。

No.3
授業内では、英語を第二言語もしくは外国語として使う人々の労働をテーマに私たち留学生を含めた人々がオーストラリアで働くことの問題点や困難について学習しました。言語の壁が原因で、実際に持っている能力を生かせない事例や、英語のスキルか職業のスキルかどちらを優先して伸ばすのか、など実際にその立場にいる人々の声を集めたものをテキストとして話し合ったりしました。また同時進行で、期末レポートの作成も行いました。media同様先月のプレゼンテーションをもとに、追加調査を行い、それをまとめました。私は、「職場において競争志向と協力志向どちらを優先させるのがよいのか」といったテーマで調査しました。

III. 生活編

6月は2週しかなく、生活といっても、すっかりもう日本の生活なのであまり書くこともないので、半年の総括として書きます。ので、ここ何か月分の内容と重複する個所もあると思いますがお許しください。
現地での生活は1ヵ月ほどで終了してしまい、半年経った今でも、やるせなさや悔いは多少なりとも残っているのは事実です。ですが、ここはあえて帰国して、日本での疑似留学の良かった点を挙げていこうと思います。先ずは、暮らしやすさです。当たり前ですが、衣食住すべてにおいて快適です。好みの服が見つかりやすい、食べ物はすべておいしい、電気水など安心して利用できる、このことで改めて自国の快適さを実感しました。（多国籍だからいろいろな文化のファッションを観察したかった、同じ理由で未知の料理を食べてみたかったというのは内緒です）
もう一つは、英語を意識する機会が、帰国することで増えたことです。英語に触れる機会は、圧倒的に現地に比べ少なくなります。が、だからこそ触れる機会を自ら増やそうというモチベーションになります。海外ドラマをみる、語学テストの勉強を継続してやる、英語の分を読むなど、「もし帰国せずに現地で留学を継続していたら」と失った機会を取り返す意気込みで、意識して英語に触れるようになったと思います。それらの事が習慣になりつつあるので、しっかり半年間留学していたとして、それに満足して燃え尽きる可能性があったことを考えると、長い目で見ればよかったかなと感じます。
半年終えてみて、結果的に満足のいく期間であったと思います。